

東北

2022.7.23.SAT ~ 9.25.SUN

www.ejrcf.or.jp/gallery

EYES ON TOHOKU

暮らし、機能、たくましさ。

へのまなざし

タウト 柳宗悦 ペリアン 今和次郎

1930
-1945

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

会場 | 東京ステーションギャラリー 《交通》JR 東京駅 丸の内北口 改札前

開館時間 | 10:00 ~ 18:00 [金曜日 ~ 20:00] ※入館は閉館30分前まで | 休館日 | 月曜日 [8/15、9/19は開館]

主催 | 東京ステーションギャラリー [公益財団法人東日本鉄道文化財団]、日本経済新聞社 特別協力 | 日本民藝館

東京 TOKYO STATION CITY

JR
JR東日本

彼らは何を見ようとしたのか――

1930年代以降の日本は、太平洋戦争へと傾斜を深める一方で、写真などのグラフィカルな視覚文化が到来し、建築や生活文化が変貌するなど、モダンとクラシック都会と地方の両極で揺れ動いた時期でもありました。

そしてこの頃、先端的な意識をもった人々が相次ぎ東北地方を訪れ、この地の建築や生活用品に注目しました。1933年に来日したドイツの建築家ブルーノ・タウト、民藝運動を展開した柳宗悦、1940年、商工省に招聘されたフランスのデザイナー、シャルロット・ペリアンなどがその一例です。

また、昭和に入ると民藝運動に呼応するように、素朴なこけしや郷土玩具を収集する動きが広まりました。さらには、考現学の祖として知られる今和次郎や、『青森県画譜』を描いた弟の今純三、東北生活美術研究会を主導した吉井忠ら東北出身者たちも、故郷の人々と暮らしを見つめ直し、戦中期の貴重な記録を残しています。

本展は、こうした東北に向けた複層的な「眼」を通して、当時、後進的な周縁とみなされてきた東北地方が、じつは豊かな文化の揺籃であり、そこに生きる人々の営為が、現在と地続きであることを改めて検証するものです。

1930-1945

EYES ON TOHOKU



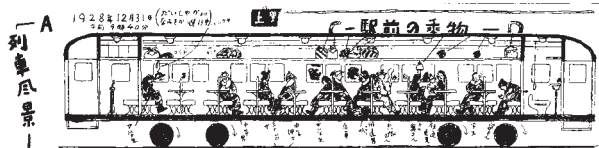
勝平得之《秋田風俗人形》昭和初期 秋田市立赤れんが郷土館



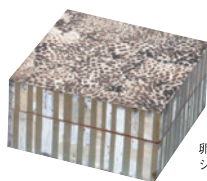
（装）福岡県南会志）1940年代 日本民藝館



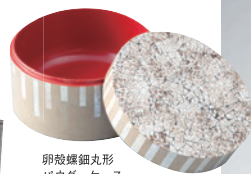
ブルーノ・タウト（原型指導）
椅（複製原型タウト）
1933年 原型指導 仙台市博物館



今純三《風俗図 乗り物いろいろ》『青森県画譜』10輯 部分 1934年 個人蔵



いずれもブルーノ・タウト（デザイン）1934年 群馬県立歴史博物館

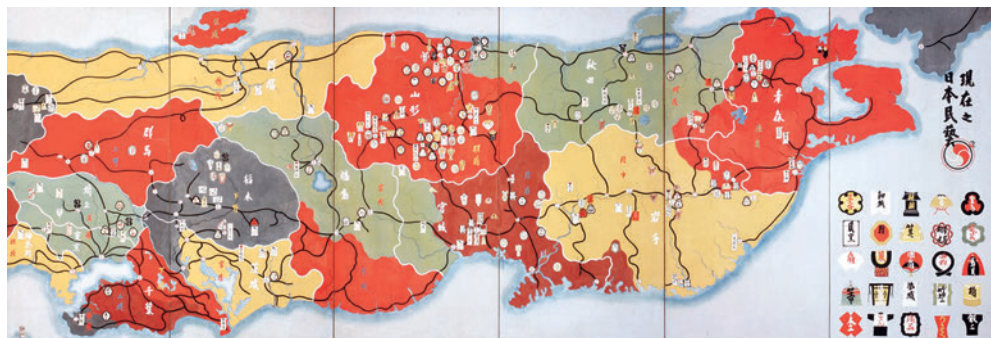


卵殻燻蝕丸形
パウダーケース

卵殻燻蝕角形
シガレットケース



《こけし（本地山系）》1925～41年頃 原郷のこけし群 西田記念館



芹沢銈介《日本民藝地図（現在之日本民藝）》部分 1941年 日本民藝館



今和次郎《岩手県御明神村の農衣》部分 1938年 工芸院大学図書館

さむいけど あったかい

《入館料》一般 1,400円 | 高校・大学生 1,200円 | 中学生以下 無料

【チケット販売】 当日券＝当館1階入口 | 日時指定券＝当館ウェブサイト www.ejrcf.or.jp/gallery

*展示室内の混雑を避けるため日時指定を導入し、各時間で入館人数の上限を設定しています

*館内でも当日券をご購入できますが、土日祝など混雑する時間帯は入館をお断りする場合があります

*障がい者手帳等持参の方は100円引き（介添者1名は無料） *招待券 / 招待ハガキをお持ちの方や無料に該当する方は直接美術館へお越しください（予約等不要）

◎会期中一部展示替えがあります（前期7/23～8/21、後期8/23～9/25） ◎新型コロナウイルス感染拡大防止対策など、ご来館前に当館ウェブサイトにて最新情報をご確認ください

【交通】 JR 東京駅 丸の内北口 改札前 【住所】 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 【TEL】 03-3212-2485

【次回展覧会】 鉄道開業150周年記念展 鉄道と美術の150年（仮称） 2022/10/8（土）～2023/1/9（月・祝）

